



## 「府中がんケアを考える会」の講演会・総会を終えて

会長 駒ヶ嶺 泰秀

5月21日(日)講演会、総会、を開きました。会場はルミエール府中です。  
演題は、「家族ががんになったら～診察時から治療期、終末期の支え方」で

講師は疇地 和代さん。(多摩総合医療センター・  
がん看護専門看護師)

内容は、看護師としての経験を踏まえたがん患者と  
家族のサポートについて含蓄のある深い内容のお話  
でした。

今年は80名を超える多くの参加者で、会場が狭  
く、立っておられる人がいるほどの講演会となりまし  
た。

もう一点、若年層の方が多く来られたのが今年の  
特徴でした。それは若い人でもがんになるということの証でもあるわけです。近年若い人の罹患が増えている  
とされています。



講演会終了後すぐに入会された方もいらっしゃいました。

続いて懇親会、20名あまりの方が参加され、講演内容への質問や感  
想がにぎやかに話し合われ、あっという間の2時間でした

がん対策基本法が施行されて10年。今年は新計画として「予防・治  
療・共生」が三本柱になる予定とのことでした。

この会として、がんになっても家族が迷わず、孤立せず、納得して暮らせ  
る「がんとの共生」が目指す方向ではないかと思っています。



## 府中がんケアを考える会 第16回定期総会報告

日時：平成29年5月21日 午後1時30分

場所：ルミエール府中 講習会議室

記念講演 疇地 和代さん(多摩総合医療センター がん看護専門看護師)

定期総会 開会挨拶 駒ヶ嶺会長

## 1) 議長選出

窪田副会長を指名

会員総数81名出席28名委任状20名で、規約により総会は成立しています。



## 2) 開会挨拶(駒ヶ嶺会長)

当会も結成以来16回目の総会を迎えることができました。

会員についてですが、患者会等を通じ新しく入会する方も増え、増強されています。

これからもさらに発展を続けたいと思います。



## 3) 第1号議案 平成28年(2016年)度事業報告(市原役員)

緩和・ホスピスケアを提供する一覧表を作成し随時更新しています。

マギーズ東京の紹介や、ライブクロスの見学会を行ってきました。

患者会を11回開催し、延65人の参加を頂きました。

講演会を2回開催しました。通信を4回発行しました。

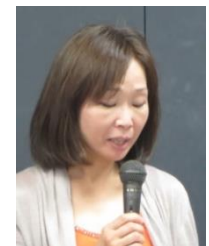
療養相談を随時行いました。(患者会、つながりフェスタ)

役員は今年度1名、会員は若干名増強することが出来ました。

あんずまつり、市民協働まつりに参加し、活動の紹介、アンケートの実施を行いました。

役員13名、会員81名、5名の増強になりました。

※ 承認



## 4) 第2号議案 平成28年(2016年)度会計報告(宇田会計・別紙記載)

監査報告(稲津臨時会計監査)

※ 承認



## 5) 第3号議案 役員選出(駒ヶ嶺会長、別紙掲載)

※ 承認

## 6) 第4号議案 平成29年(2017年)度事業方針(駒ヶ嶺会長)

「がんケア」について学習会、講演会、見学会を行い、通信、ホームページ、関係機関との活動を通じて情報発信を行います。

患者会をさらに続けていきます。

※ 承認

## 7) 第6号議案 平成29年(2017年)度予算案(宇田会計)

※ 承認

## 8) 活動方針案〈具体的な活動〉(武智役員)

緩和ケア・ホスピス施設の調査、見学会を行います。

講演会を年2回を予定しています。

患者会を11回予定しています。

療養相談を行います。

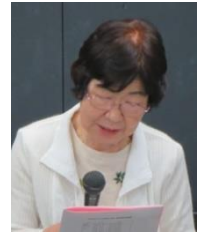
議論・アンケートをもとに市や関係機関に向けて市のがん対策が推進されるよう、情報収集、対策の素案をまとめます。

府中市とがん対策に関するパンフレットを共同で作成します。

通信を4回発行します。

役員、会員の増強を図ります。

※ 承認



## 承認された府中がんケアを考える会 新年度役員

役職	氏名	住所
会長	駒ヶ嶺 泰秀	府中市紅葉丘
顧問	十蔵寺 新	府中市若松町
副会長	市村 晴子	府中市紅葉丘
	窪田 ふく子	府中市朝日町
役員	三宮 克己	調布市国領町
	平松 ふじ子	府中市北山町
	市原 美幸	府中市紅葉丘
	戸田 伸一	府中市府中町
	宮田 乃有	国分寺市東元町
	武智 一雄	府中市天神町
	小島 紀子	府中市住吉町
会計	宇田 ひさ子	府中市紅葉丘
会計監査	稲津 憲護	府中市西原町

## 承認された決算と予算

平成28年(2016年)度決算書(28年4月1日~29年3月31日)

収入の部	科目	決算額	内訳
	会費	¥142,500	会費 @ ¥2,000 × 70人(納入人数) 入会金 @ ¥500 × 5人
	受取利子	¥71	
	寄付金他	¥23,360	
	前期繰越金	¥203,518	
	計	¥369,449	

支出の部	科目	決算額	内訳
	活動費	¥51,825	講師謝礼、施設利用費他
	事務費	¥18,342	用紙代、コピー代他
	通信費	¥66,142	葉書、切手、郵送料他
	次期繰越金	¥233,140	
	計	¥369,449	

上記のとおり報告します。平成29年3月31日 会計 宇田 ひさ子  
 収支金額について監査の結果相違ないことを認めます。

平成29年5月21日 会計監査

稲津 恵護

平成29年(2017年)度予算案(29年4月1日~30年3月31日)

収入の部	科目	予算額	内訳
	会費	¥140,000	会費 @ ¥2,000 × 70人
	前期繰越金	¥233,140	
	計	¥373,140	

支出の部	科目	予算額	内訳
	活動費	¥140,000	講師謝礼、施設利用費他
	事務費	¥100,000	用紙代、コピー代、プリンター他
	通信費	¥80,000	葉書、切手、郵送料他
	予備費	¥53,140	
	計	¥373,140	



あぜちかずよ  
疇地和代さん講演要旨

『家族ががんになったら～診察時から治療期、終末期の支え方』

講師：疇地 和代さん

(多摩総合医療センター がん看護専門看護師)

☑ 家族は第二の患者

多くの人のがん患者にもなりうるし、その家族にもなりえます。がんになった本人も家族もこれからどうなってしまうのか？と思い、後悔したり自分を責めたり、先行きが不安になったり、大切な人を失うかもしれないと考えます。

死や病気は当たり前だけでも、いきなり目の前に突き付けられるので当たりの日常を失うのです。苦しむがん患者の家族も医療の対象であり他者の支援を受けるべきで、支えられながら患者を支えていかなければなりません。

☑ がんになった本人と家族を支えるヒント

ヒント 1 本人の気持ちや希望を理解できるように努める。人が人を理解することは家族であっても、友人であっても簡単なことではない。理解しようという姿勢でいることが大切である。

ヒント 2 情報どうまく付き合う。本人を支えるため家族も正しい情報を得ることが大事。

ヒント 3 (ご家族が)自分自身を大切にする。ご本人を支えるためには自分をいたわることが大切です。

ヒント 1 本人の気持ちや希望を理解できるように努める

本人の気持ちは「なぜ自分が？働きすぎ？無理して？」「お金、仕事、子供、家族は・・・これからどうしよう」「死んでしまうの」、死への恐れから当たりの日常を失う苦しみを感じるが、このように日常を失う苦しみの感情は家族が大切な人が、がんになったときに感じる心の状態と同じです。

人を支えるということは、その人の苦しみを和らげようとするのであり、相手の苦しみに意識を向け続け、言葉や振る舞いで相手の痛みへの了解を伝えながら、相手が「解ってもらえたと感じる」ことを目指すことです。痛みとは「ズレ」、すなわちその人の思い、願い、価値観とその人にとっての客観的状況との間に生じた「ズレ」であり、これが痛みなのです。

苦しみを和らげる、支えるには傾聴が大切です。相手の痛み(ズレ)に集中して その言葉を反復して語っている本人へ返してあげる。意見や励ましは本人が「苦しい」と言えなくなります。充分話を聴いて、相手が「自分の気持ち(痛み)を分かってくれた」と十分感じられてから励ましが必要感じたならば励ましも必要な場面もあるでしょう。医療者も、専門的知識や意見を言いがちだが、傾聴が大切です。

変えられない客観的状況の中で本当にできることは、相手に何かをしてあげる以上に、その場から逃げずに話を聴いてあげることです。

それが痛みを受け止めてあげることになります。家族が本人を“理解する”こと以上に大切なことは、本人が“分かってもらえた”と感じることです。



## ヒント2 情報とうまく付き合う

テレビ、雑誌、ネット、病院の情報などについては、がんの種類、進行度、発生部位、年齢、体調、生活スタイル、価値観が患者本人と同じか一度冷静に考えてください。

その治療法、サプリメントは法外に高くないか？ 選択しようとしている病院は長期的な通院が可能な距離で、急な体調不良の場合すぐに自分たちで受診可能なのか？ 患者本人の病状を正しく理解できているかを確認しましょう。

膨大な情報量故に混乱したり、判断できなかつたりすると、適切な治療を受けられなかつたり、心身の疲弊や経済的な損失を被ることもあります。

情報とうまく付き合うには、がん診療連携拠点病院（府中周辺では武蔵野日赤、杏林病院、多摩総など）の“がん相談支援センター”を利用しましょう。「がん情報サービス」（がんセンター）で検索してみる。

また、得られた情報は本人の病状を一番把握している主治医、看護師に相談してみましよう。その際は、疑問点を紙に書き出し整理することをお勧めします。他の専門医の意見を聞くため、セカンドオピニオンを利用することも良いでしょう。



→**がん相談支援センター**とは がん診療連携拠点病院に設置されている相談窓口のことで、専門相談員により治療、医療費、社会サービス、気持ちのつらさについて、本人や家族の相談に乗ってくれます。その病院の患者でなくても、匿名でも相談できます。

→**治療のガイドライン**とは 科学的根拠に基づき、標準的かつ推奨される情報が記載されており治療の指針となるものです。「標準治療」は現時点で科学的にその効果やリスクなどが確認された最良の治療とと考えてください。「臨床試験」「未承認薬」「先進医療」は現在有効性、安全性を検討中であつたり、一部施設のみで実施可能な治療法です。

「標準治療」より効果があるとか、優れているという意味ではないということを理解しておいてください。

→**セカンドオピニオン**とは 治療を選択する際に別の専門医の意見も聞くことです。どのような病状、病気の時期（治療開始時、治療中、終末期）に利用しても構いません。進め方は、セカンドオピニオン施設を決める→必要書類の準備（現主治医へ依頼）→セカンドオピニオンを受ける病院の予約を取得する→受診。セカンドオピニオンの内容・結果次第で転院する場合がありますが、いったんは紹介元へ戻るのが一般的です。

## ヒント 3 (家族が)自分自身を大切にす

家族ならではのつらさ、苦しみと対処法を知りましよう。「私がしっかりしなきゃ」と自分のことを後回しにしたり、大切な家族を失うのは耐えられないと思つたり、他の家族と意見の対立を起こすこともよくあります。息抜きは必要ですし、家族自身の生活やコンディションを保ってください。これまでの人生を乗り越えてきた、

自分の強さを思い出しましょう。

家族は、愛情ゆえに対立することがありますが、同じ苦しみを共有できるのも家族なのです。家族を支える様々な人の存在を知り、つながり、話を聴いてもらうと考えが整理されます。

支援相談センターで相談することで、状況次第では家族自身の治療につながることもあります。精神科の受診も必要な場合は受けてみることも検討してください。

一人で抱え込まず、交流会にでてみたり、誰かに手伝ってもらえることは任せたりしましょう。患者本人に対しての、これまでの罪滅ぼしのように全部抱え込もうとする家族もいますが、医療者から「大丈夫」と言われたら任せてみてください。

そして一度にすべてを解決しようとせず、一つひとつ整理し解決していきましょう。

## 診断期にある患者を支える

### 医療者とのコミュニケーション

診察に付き添い、動揺している本人に代わって症状や疑問に思うこと、治療に対する希望などを伝えます。一番は本人が自分の言葉で話せるよう支えること。患者も家族も動揺した場合に病状を伝える医師に対して、怒りの感情を向けることがあります。そのときは医師以外の職種や相談員に話をしてみましょう。

### 病名告知と予後告知

病名告知は「がん種」「進行度」「転移の有無」「がん細胞のタイプ」などが伝えられます。予後告知は「余命の目安」を伝えることです。

しかし、治療への反応にもよるので予測困難なことが多いです。残された時間の目安を聞くことで、ライフプランを立てることもできるので知っておきたいと思うのなら確認してください。

本人の知る権利もありますが、逆に知りたくない権利というものもあります。朝日新聞の調査によると、がんになったら自分には知らせしてほしいと回答する一方、家族ががんになったら知らせたくないという人が多くいたそうです。

告知の問題は、家族にとって悩み深い問題といえます。

### 告知をどうする

取り繕い続けることは、周囲の人々の疲弊を生み、治療や療養場所の選択についてのタイミングを逃すこともあります。本人が「(周りの人の様子が)何か変」「なんで教えてくれないの」と感じることで、疎外、孤立、孤独になります。

家族は、本人が告知を「耐えられない」と決めつけないで、告知するメリットについても考えましょう。伝え方、その後のフォローが重要です。

思いやりとは隠すことでしょうか、本人の気持ちを尊重することでしょうか。

## 治療期にある本人を支える

### 診察室への同席

治療効果判定のための結果を聞くときは、可能な限り本人と一緒に聞いてほしい。

## 副作用対策

本人が我慢をしないよう声をかけ、医師や看護師に相談をする。治療効果と副作用による生活の質(QOL)への影響について、そのバランスを考えてみる。サプリメントの使用は必ず医師に伝える。まれに肝機能障害を起こす場合もあり、その手当てのため抗がん剤を中止することもあります。

## その他

お金、仕事、在宅介護・医療 相談内容に応じた制度や相談窓口などはソーシャルワーカーが提案します。

## 積極的治療の限界～終末期の本人を支える

抗がん剤治療の負担が、治療を行うことで期待される効果を上回る。

薬剤や臓器機能の限界が来た時や、食事がとれないなど生活動作が低下した時、緩和ケアが治療の中心になります。緩和ケアは「何もしない」ではなく、不快な心身の症状に対する「積極的で全体的な医学的ケア」とです。積極的な抗がん治療の終了に納得できない場合は、本人と話し合ったうえで「セカンドオピニオン」や「臨床試験」などの情報を集めてみても良いですが、あくまでも本人の意向を尊重しましょう。

死を認められない気持ちが大切なことから目をそらす。

本人は体の変化を認識し、自分の「死」を実感していることも多く、「頑張ろう」「治そう」ばかり言って励ましてばかりいると、「自分の気持ちを誰もわかってくれない」と感じ、孤独や孤立を深めます。本人が最期の時にどこで生活し、誰にそばにいて欲しいかをかなえられるよう環境を整えます。

また、家族自身も安全な場所で十分に悲しみの感情を出せるようにします。

おわりに

## 私が大切にしていること

患者さんが本人の意向に沿った適切な医療の恩恵を受けられるようにし、本人とご家族にとって最善の療養生活ができるようお手伝いをすることです。

## 私が患者さんとご家族に教えてもらったこと

生老病死は避けられません。「死」を考えることは「どう生きるか」を考え続けることです。「そばにいるよ」「大好きだよ」「ありがとう」「ごめんね(許してあげるよ)」「さようなら、またね」と患者さんと家族が伝えあえるようお手伝いするのが看護師の大切な仕事、と思います。

## 会場からの質問

### 緩和ケアとターミナルケアの違いは？

緩和ケアは診断初期から身体的、心理的、社会的なケアをすること。スピリチュアルという領域があるが、スピリチュアルペインとは「自己の存在と意味の消滅から生じる苦痛」です。自分の存在を支えている概念、それらを失う苦しみです。スピリチュアルペインの緩和とは、私はこういう人間でありたい(こういう人間だ)と



思っているのに、病気や迫りくる生の限界のために、これまでの自分ではいられないという苦しみをやわらげることです。身体、社会、精神、スピリチュアルペインすべてを含めてトータルペインと呼び、全人的な苦しみをやわらげることを緩和ケアと言います。医薬の力、コミュニケーション、社会的サービスの調整等々によって緩和ケアを行っていきます。

ターミナルケアは昔の緩和ケアに近い。積極的な抗がん剤治療に反応しなくなった人や余命がわずかな人に対して、死に着実に向かっていく中で提供されるケアです。緩和ケアの概念の後半にターミナルケア位置するようなイメージです。家族の喪失への嘆き、悲しむ感情も含めたケアです。

### 緩和ケアは入院中に自然になるのか、お願いするものか？

緩和ケアは入院、在宅にかかわらず診断期から始まります。告知で動揺した気持ちのつらさを和らげることも緩和ケアといえ、痛みの治療が緩和ケアではなく、痛みの治療は緩和ケアの一部といえます。抗がん剤による吐き気を抑えたり、白血球が下がったら増やす治療をしたりすることも一種の緩和ケアと考えられます。

緩和は「してください」ではなく、痛みや苦しみ、つらい症状があるということを発信することによって、それを受け取った医療者が、その苦しみをやわらげるように必要な職種や専門家たちを動員させていきます。積極的抗がん治療ができない状態になってきたら、緩和ケアが主体になります。積極的抗がん治療と緩和ケア



は、一気に切り替わるのではなく常に並行して行われ、徐々に緩和ケアのウエイトが増えてシフトしていく、というのががんという病気のプロセスです。

患者、家族から発信することによって共有された問題認識になるので、痛みや苦しみ、悩みなどを話してください。痛くて苦しんで亡くなるのは昔の話で、痛みをとることが一番大事で、それは可能ですので、痛みは我慢せず早めに伝えてください。がんを一概に苦しんで死ぬ病気と思わないでほしい。

すぐに亡くなる病気ではなく、人生における仕上げの準備時間がある病気なのです。がんを怖いと思うのは当然ですが、その気持ちに付き合うスタッフを育てようとして国も自分たちも頑張っています。

私自身は、病気の人と健康な人、患者・家族と医療者というような区別なしに、同じ人間としてよい対応ができるスタッフとして成長していきたいと思っています。

一つお願いしたいのは、医者に期待をしすぎないで欲しいということです。先生にはあらゆる話を聴いてほしい、自分たちの全てを解ってほしい、全部受け止めてほしいと思うかもしれませんが、医者という職種は基本的に疾患を診ることを特に教育されてきた人たちです。

私たち看護師は、疾患ではなく病気を抱えた人を看なさいと教育されました。ずっと話を聴いてばかりで、多くの患者を待たせる医者だったらどうでしょう。

一人の職種(医師)に求めすぎるのは酷なのです。医師はみな必死に診療をしています。医師だけでなく、あらゆる職種が自らの専門職性を発揮しながら補い合うのがチーム医療です。

医師は診断・治療に責任を持ち、地域で暮らす多くの人を診るという責任があります。その中で、十分な心のケアには限界があるということも理解してあげてください。

医師をはじめとする他職種への緩和、気持ちのつらさについての教育は始まっています。医者ばかりに求めず、他の職種(看護師やソーシャルワーカー、臨床心理士等々)も頼ってください。

## ～ホスピスケアホーム ライブクロス～ 施設見学報告

5月2日、今年1月に稼働したホスピスフロアのあるサービス付き高齢者住宅 在宅型有料老人ホーム、ホスピスケアホーム ライブクロスに、役員と患者会にお越しにいただいている方々合わせて9名で見学しました。多人数にもかかわらず快く丁寧に施設の案内をして頂いた関係者の皆様に感謝の限りです。概要を報告します。

2階にホスピスフロア 1・3階が一般フロアとし、部屋の広さは1室約18.00～18.90㎡ 介護ベッド付き、他の家具は持ち込み自由。24時間面会可能です。



通常の有料老人ホームとの違いは、24時間対応の施設併設事業所として訪問看護ステーション、訪問介護事業所があり、がん患者のみならず難病や重度医療依存度の高い方も利用でき、がん看護専門看護師を軸に社内研修を受けた在宅ホスピスサービスを提供できるスタッフが整っている所です。

**ミッション** : 在宅ホスピスの研究と普及

**ビジョン** : 2025年までに年間1万人在宅看取りの支援

**スローガン** : すべては笑顔の為に

**キーワード** : ホスピスマインド その人の人となりを知ること

個別の物語 自由な暮らし 自己決定の尊重と対応

他職種チームでの実践 医療と介護の統合

自宅で介護の継続が困難になった方、自宅で医療を受けることに不安がある方、などに対して、看取りまでシームレスに中長期の在宅療養の支援が受けられます。(胃ろう、経管栄養、中心静脈栄養、褥瘡、人工呼吸器、たん吸引、在宅酸素、疼痛管理、スチーム、インスリン注射、等の管理も可能) 付き添い(有料)での通院や、往診(医療保険)を受けることも可能です。

費用は要介護度や部屋により異なりますが、ホスピスフロアでは敷金60万円と30万円のプランで、介護保険料1割負担で約23万～30万円台となります。

その他に、消耗品、有料サービス(オプション)の費用が加算されます。

個室の他に、1階には食堂やくつろぎのスペース、1,3階には一般浴室、2階にはゆったり入れる機械浴室が整備されています。ペットやお酒もよく、自宅のように、自分らしく過ごせるのではないかと思います。詳しくは下記にご相談ください。

問い合わせ先:042-318-9563(相談受付時間 月～土曜日 9時～17時)

所在地 : 東京都府中市是政2-38-9



懇親会



紅葉ヶ丘 あんずまつりへ出店

年度の行事予定・9月以降は確定していません。ホームページ、案内チラシで確認してください。

日時	行事	会場
7月30日(日) 午後1時30分～	患者会	中央文化センター(第一会議室)
8月27日(日) 午後1時30分～	患者会	中央文化センター(第一会議室)
9月17日(日) 午後1時30分～	患者会	中央文化センター
10月29日(日) 午後1時30分～	患者会	中央文化センター
11月19日(日) 午後1時30分～	患者会	中央文化センター
11月26日(日) 午前10時～	府中つながりフェスタ	グリーンプラザ
12月10日(日) 午後1時30分～	患者会・講演会	プラッツ(新施設 第一会議室)

**会計からのお願い** 新年度の会費が未納の方はお振込みをお願いします。(2,000円)  
 すでに本紙と入れ違いにお振込みをいただいている方はご容赦ください。  
 ご連絡いただければ振込用紙を送付いたします。  
 口座名 府中がんケアを考える会 口座番号 00120-9-20974

**編集後記** 無事第16回総会が終了しました。会員、役員の方皆さんお疲れ様でした。広い会場が取れず、窮屈な会場でまた皆さんにご負担をかけました。年末講演会は新施設の広い会場です。楽しみです。甘酒作っています。今年はこれで夏を乗り切ります。

武智

発行 府中がんケアを考える会・通信編集部  
 連絡先 183-0004 東京都府中市紅葉丘3-33-4 駒ヶ嶺 泰秀 042-302-2607  
 Mail: ktakechi@fuchugancare.org

	日付	テーマ	講師(敬称略)	
1	01/10/28	がんと向き合ったとき、あなたならどう生きますか	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
2	02/02/17	ホスピスの体験から	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
3	02/04/28	在宅ホスピスについて	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
4	02/07/14	緩和ケアで使われる薬について	薬剤師(元ピースハウス病院職員)	玉井 照枝
5	02/10/11	朝日タウンズ特別講演会「日野原先生」		
6	02/11/24	心と体の痛みを癒すには	くらしき作陽大学教授	篠田 知璋
7	03/05/18	地域に密着した在宅ケアについて	平林医院・院長	平林 竹一
8	03/06/10	ホスピスセミナー	桜町聖ヨハネホスピス研究所所長	山崎 章郎
9	03/08/03	ヨーロッパのホスピス事情	府中ホスピスを考える会・副会長	市村 晴子
10	03/10/26	家で最期を迎えるために －在宅ホスピスケアの実態	ホームケアクリニック川越院長	川越 厚
11	04/04/18	家族の立場からホスピスケアを見る	府中ホスピスを考える会・会員	駒ヶ嶺 泰秀
12	04/09/10	輝いて生きる－人生の後半を－	聖路加国際病院・名誉理事長	日野原 重明
13	04/11/07	コミュニティで考えるこれからのホスピスケア	聖ヨハネホスピスケア研究所・研究員	長谷 方人
14	05/06/05	夫をがんで見送って－入院治療3ヵ月後の不安	府中ホスピスを考える会・会員	森山 レイ子
15	05/09/24	地域で生きる－尊厳ある生と死をもとめて	聖ヨハネホスピスケア研究所・所長	山崎 章郎他
16	05/10/30	命と響き合う絵本	ノンフィクション作家	柳田 邦男
17	05/11/26	更年期障害と子宮がん	東府中病院・院長	十蔵寺 新
18	06/03/26	人間のいのちと死－終末期医療から見る	医療法人恵風会施設長・医学博士	渡邊 寛宣
19	06/05/21	千倉市「花の谷」(ホスピス)の紹介	府中ホスピスを考える会・副会長	市村 晴子
20	06/08/20	NHKビデオによるホスピスに関するQ&A	府中ホスピスを考える会・副会長	市村 晴子
21	06/09/09	永六輔 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピス研究所共催	
22	06/11/11	ときめく「命(いのち)」をいきる	青山学院大学講師	野村 祐之
23	07/04/01	さいごまで生きる施設－ホスピス－でのとき	ライフプランニングセンター所長	平野 真澄
24	07/06/24	「いのち輝かせて生きる」－こどもから老人まで	聖路加国際病院・名誉理事長	日野原 重明
25	07/10/13	鎌田実 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピス研究所共催	
26	08/01/20	地域におけるホスピスケア －患者と家族の心を支える－	医療法人社団イバラキ会	高野 和也
27	08/05/25	ホスピスケアにおける訪問看護の役割	府中医王訪問看護ステーション 地域看護専門看護師	宮田 乃有
28	08/08/03	阿伎留医療センター緩和ケアセンターの現状	公立阿伎留医療センター緩和ケア科・医師	戸沢 育文
29	09/01/25	ビデオによるホスピス緩和ケアの歩み	府中ホスピスを考える会・副会長	市村 晴子
30	09/05/17	府中市における訪問看護ステーションの現状	府中市医師会訪問看護ステーション・所長	芝尾 幾世
31	09/11/15	ホスピスケアの核となる施設の実現に向けて	ボランティアまつりパネルディスカッション	会役員
32	10/05/02	府中でも実現したい 地域で家庭でホスピス・緩和ケアを	ケアタウン小平クリニック・院長 聖路加国際病院・名誉理事長	山崎 章郎 日野原 重明
33	10/08/22	在宅緩和ケア「いつでも・・・緩和ケア」のために	ピースクリニック中井・院長	永山 淳
34	10/11/28	府中で「ホスピス」を実現したい	府中NPO・ボランティアまつり	会役員
35	11/05/22	ターミナルケアの現状と問題点	ながた内科クリニック・院長	永田 宏
36	11/10/02	家族の立場から在宅ホスピスケアを考える	在宅看護利用者/ 府中医王訪問看護ステーション 地域看護専門看護師	荻野和子 宮田乃有
37	12/05/27	在宅医療－終末期緩和ケアについて	せいわクリニック・院長 拓鍼灸院・院長	朴 正一 長友 拓也
38	13/10/12	誰でもよくわかるやさしく学ぶ緩和ケア入門	在宅医療・緩和ケアカンファレンス NPO法人臨床支援協議会	
39	13/12/01	日野原先生講演会	新老人の会と共催	日野原 重明
40	14/05/18	地域医療を担う家庭としての緩和医療の現状	武蔵国分寺公園クリニック	名郷 直樹
41	14/11/16	在宅医療を受けたいとき	寿町クリニック・医療相談員	井上 敬介
42	15/5/17	サポートハウス「山の上」の報告	株式会社 ラピオン代表取締役	柴田 三奈子
43	15/12/13	ホスピスの風景から	聖ヶ丘病院 地域連携室・室長	太田 いく
44	16/5/29	誰でもわかる！やさしく学ぶ緩和ケア入門	多摩総合医療センター 内科部長	芝 祐信
45	16/12/11	多摩総合医療センター・がん相談支援センターのこと	多摩総合医療センター・ソーシャルワーカー	堀尾 彩乃